第77号

会報　名音教

発　行
令和５年１２月５日
名古屋市音楽教育研究会
広　報　部

令和５年度　研究主題

感じ取る　伝え合う　より深く

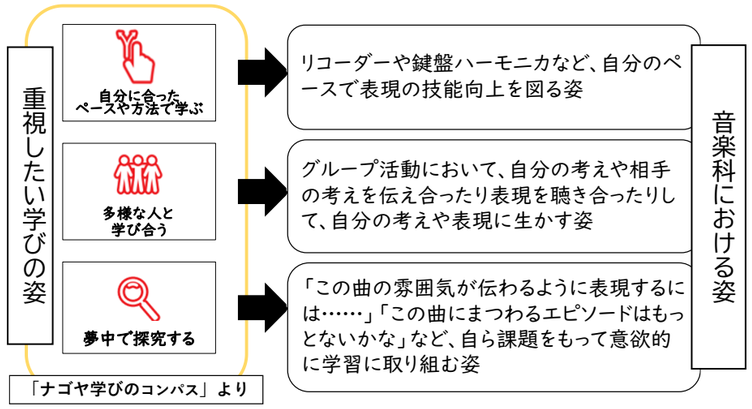
－音や音楽と豊かにかかわることを目指して－

「楽しい授業」を目指して

名古屋市教育委員会指導室
指導主事　二階　千晶

今年度、本市において「ナゴヤ学びのコンパス」が策定されました。本市の全ての子どもが学びを通して自分らしく、幸せに生きていくことができるように示された、本市の学びの基本的な考えです。その中では、「重視したい学びの姿」が三つ示されています。この「学びの姿」は、「子ども中心の学び」を実現するために「指導の個別化」「学習の個性化」を意識して整理されたものです。

音楽科では、どんな姿が「重視したい学びの姿」となるのでしょうか？



「ナゴヤ学びのコンパス」より

それぞれ、上記のような姿が想像できるのではないでしょうか。そして、子どもの思いや願いを尊重し、子どもと対話し、子どものチャレンジを大事にしながら、「有能な学び手」である子どもの学びに伴走していくことが「大人が大切にしたいこと」と示されています。

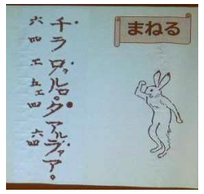
さて、タイトルにあります、「楽しい授業」とはどんな授業なのでしょう。「音楽の知識が豊かになる授業」「好きな音楽を演奏したり聴いたりする授業」「みんなで合奏や合唱をする授業」……。意識したいのは、我々教師の働き掛け方次第で結果が変わる、ということです。「有能な学び手」をいかにその気にさせるか。「先生が面白くて楽しいから音楽が楽しい」と答える子どももいるでしょう。実は、これこそ音楽科の教師が大切にしたい姿ではないでしょうか。厳しい表情で授業に臨んでいませんか。まずは先生方自身が授業を楽しみ、子どもも伸び伸びと活動できるような、そんな授業を期待しています。

夏季研修会報告

日時：８月１０日（木）　会場：ルブラ王山

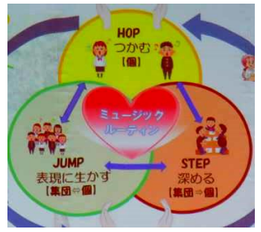
【第１部　研究発表】

１　「音楽文化と豊かに関わる生徒の育成　―我が国や郷土の伝統音楽の実践を通して―　」　鎌倉台中学校　田中　省吾　先生



我が国や郷土の伝統音楽を継承する伝統的な方法である「模倣」や「口唱歌」を、「まねる」「生かす」「比べる」の三つの手立てを用いた実践が報告されました。楽譜を手掛かりにするのではなく、口唱歌を通して音楽を丸ごと捉えて表現に生かすことや、西洋のものと日本のものとの比較を通して、それぞれの文化の特徴やよさを考えることで、我が国や郷土の伝統音楽への理解が深まる実践でした。

２　「音楽のよさや魅力に気付き、表現を高め合う生徒の育成
―基礎的な音楽の力を育み、学びあいを通した歌唱・合唱活動を通して―」　滝ノ水中学校　山本　高栄　先生



コロナ禍で行われた歌唱活動の実践は「今、なぜ歌うことが必要なのか」という、我々音楽科教師への本質的な問いから始まりました。歌わされる合唱ではなく、生徒が主体的に歌唱活動に取り組み、対話の中で歌詞の意味や曲に込められた想いを感じ取って深め、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の三つの手立てと、それを支える「ミュジックルーティン」の手立てを通して、生徒が表現を高め合う様子が映像からも伝わってきました。手立てが生徒の心の琴線を震わせ、合唱を通して音楽と生徒たちが深く結ばれたことが伝わってくる実践でした。

【第２部　講演会】　「これからの時代の音楽教育に求められるもの」　信州大学教育学部教授　齋藤　忠彦　先生

公立中学校教諭の経験もある齋藤忠彦先生より、**「これからの時代の音楽教育に求められるもの」**についてご講演いただきました。

まず、今話題となっている「チャット GPT」で作られた詞を基に、自動作曲サイト「CREEVO」にて講演中に自動作曲を実演していただきました。このように、音楽が容易につくれる時代であると実感し、「自動でできる」利便性と危険性の両面を捉える必要があるとお話しいただきました。

次に、第１部での山本先生や田中先生の研究内容から、「主体的な深い学びには、表現のアウトプットを行うこと」、「音楽のありのままをとらえられる、音楽を『まねる』活動」は大切であるとご示唆いただきました。

最後に、今求められている、「一人一人の学習課題を設定するために、一人一人の達成度に応じた個別最適化を行うこと」は容易なことではない。しかし、人間と「音」・「音楽」との関わりの歴史は何万年にも及び、短い年月で急速に時代の変化・進化を遂げてきた文化でもある。今は無料で動画などを視聴でき、個々が自分で音楽を学べる時代になってきた。したがって、時代の流れとともに学び方を変容できる教科であるため、今までもっていた既成概念や固定観念を超え、学校で何を学ぶかということを教師は常に考え続けてほしい、と励ましの言葉をいただきました。

生産・文化部活動指導者研修会（合唱・指揮）

以下の日時になりました。１１月３０日（木）が参加申し込み締め切りとなっていましたが、ご希望がありましたら、１２月１５日（金）までに、**緑区　滝ノ水中学校　山本高栄**先生へお申し込みください。

日時：令和５年１２月２７日（水）１０時００分～１２時００分　名古屋市立港明中学校　音楽室
講師：東京都府中市立府中第四中学校主幹教諭　横田　純子先生
内容：合唱指導・合唱指揮の方法（港明中学校合唱部をモデルに「群青」で、実際にご指導いただきます）
※　小中学校の授業や卒業式における合唱指導においても役立つ内容です。小学校の非常勤の音楽専科の先生や中学校の非常勤の音楽の先生も参加できます、多くの先生方にお声がけください。

各研究部の取り組み

授業研究部の取り組み

授業研究部では、「授業のスキルアップを目指したい！」をテーマに、よりよい授業について考えたり、情報交換をしたりしながら研究を進めています。

第１回の部会では、常時活動や歌声づくりに焦点を当て、具体的な活動内容や指導法を考えました。常時活動では、リズム感や呼吸の仕方を楽しみながら身に付けられる活動や教具について、実際に活動を体験しながら考えました。歌声づくりでは、「夢の世界へ」を使って、響きのある歌声づくりや、強弱を生かして表現する際のポイントについて考えました。参加者からは「積み重ねが大切だと改めて感じた」、「発声ばかりに意識が向きがちだが、呼吸の大切さについて考える機会となった」などの感想をいただきました。

第２回の部会では、音楽づくりの題材である、６年「じゅんかんコードをもとにアドリブであそぼう」、２年「おまつりの音楽をつくろう」を使って、子どもたちが主体的に取り組むための活動内容や指導法について考えました。即興的に旋律をつくって表現する活動や、リズムのつなぎ方や重ね方を工夫してまとまりのある音楽をつくる活動を体験しながら、よりよい指導の工夫や教具の活用について話し合い、活発に意見が交わされました。

第３回の部会では、テノール歌手の塩谷幸大先生を講師にお迎えし、楽しく身に付く発声の練習や、いつもの授業に生かせる合唱指導について、実践を交えながら分かりやすく教えていただきました。参加者から「子どもたちが楽しく発声を意識できるような活動を教えていただけてうれしかった」、「短時間でできる活動を紹介していただいたので授業に取り入れやすい」、「いろいろなアプローチで身体を使う発想がとてもよかった」などの感想をいただきました。

教育研究部の取り組み

教育研究部では、月に１度「Music　Day！」を開催し、授業で効果的であったことを報告し合ったり、日頃の授業での悩み事を相談し合ったりすることで、音楽科で育てたい子どもの姿が達成できるよう、研究を進めています。第１回の部会では、愛知小学校長の柴山由美子先生を講師にお迎えし、「研究論文の書き方について」のご講演をいただきました。二つのパターンの例文から、それぞれの文章のよさを考える活動を通して、相手に何を伝えたいのかを明確にして文章にすることが大切であることを教えていただきました。その後、グループに分かれて、明日から使える音楽の授業のアイデアを出し合いました。

第２回の部会では、「１学期の授業の振り返り」を行いました。授業の動画や、実際に使用した学習プリントを持ち寄り、授業のアイデアの共有を行ったり、２学期の実践につながる手立てを考えたりしました。ICT の効果的な活用の仕方も話題に上がり、「次の授業で早速取り組んでみたいです」という声が聞かれました。今後も参加者の先生方の思いに寄り添いながら、みなさんと共に指導方法を検討し合い、音楽科で育てたい子どもの姿が達成できるよう、研究を続けていきたいと思います。

Ｑ＆Ａ　音楽科指導員 笠寺小　徳田幸子先生に聞いてみました♪

～歌唱編～
歌声が小さく弱々しいです。

音程を上手に聴き取れない、捉えられないために声をあまり出せない、発声の仕方に課題があって小さな声しか出せないなど、原因を把握することが必要ですが、歌唱に求められる一般的な発声を身に付けるとクリアできるケースが多いようです。いろいろなアプローチ方法がありますが、常時活動にハミングを取り入れてみてはいかがでしょうか。ハミングとは、鼻歌のことです。ハミングは声を響かせる練習になり、声の通りがよくなります。また、ハミングは口を閉じているため、口から息を吸うことができません。そのため、鼻から息を吸うためには腹式呼吸ができていることが前提になります。よって、ハミングをすると、腹式呼吸で歌うことにもつながると言えるでしょう。さらに、音程に集中できたり、鼻を上手に使うことができるようになることで、高音が出しやすくなったりします。こつは、喉に力を入れないこと、口の奥・鼻に振動を感じることです。その他に、空気いすで歌ったり、かけ足をしながら歌ったりする方法も楽しく取り組めます。

コロナ禍では、「心の中で歌いましょう」というように、歌声だけでなく、体育的行事での応援や室内での声の大きさ等、様々に制限されてきました。思い切り歌ってもよいと分かっていても身体や心は、なかなかついてきません。まずは、安心して歌える環境を整え、子どもたちと楽しみながら自分たちに合う方法を模索し、歌声づくりを続けていきましょう。

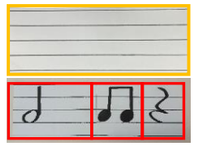
～基礎的な知識編～
拍の長さや音符の名前が定着できません。

音符カードを使ったリズムづくり遊びがおすすめです。

音符を並べてリズム打ちしたり、問題を出し合ったりと、バリエーションが豊富で、要素を理解するために効果的なツールです。

「ど～んなリズム？」

Ｔ「聞いてよどうぞ」
Ｃ「ど～んなリズム？」
Ｔ リズム打ちをする
Ｃ カードをならべる
Ｔ「たたいてどうぞ」
Ｃ リズム打ちをする



Point ①１小節の広さが分かるように小節カードを配布

Point ②拍の長さに合った幅で音符カードを作成

Point ③リズムパターンの幅をもたせるために同じ音符カードは２枚以上に。音符の種類は徐々に増やす。

[例:小学３年]

Ｔ「たたいてどうぞ」の後のＣは「ターアータタウン」と口ずさみながらリズム打ちをすることで自分自身が並べたリズムの確認にもなります。慣れてきたら、教師の部分を子どもがしてもよいでしょう。マイ音符カードを作成することで、一つ一つの音符の拍の長さを捉えたり、いろいろなリズムパターンをつくって遊んだりすることもできます。

学習指導要領には、小学校の第１学年及び第２学年の目標と内容に、音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること、とあります。単にその名称や意味を知るだけでなく、実感や体感を伴った活動ができる知識を身に付けさせたいです。このような活動によって、譜読みができるようになったり、さらには、リズムの働きと曲想の関わりを捉えられるようになったりすることにつながると考えます。

冬季研修会　案内

日時：令和６年　２月１７日（土）１５：３０～
（１５：１５より受付）

場所：ルブラ王山

＊　内容につきましては派遣依頼とともに送付させていただきます。

教育研究派遣員報告

白鳥小学校　島村　加菜子　先生
東築地小学校　宮島　志穂　先生
旭出小学校　榊原　ちひろ　先生
前山小学校　宇留野　真穂　先生

会報「名音教」次回第７８号の発行は
３月１２日（火）　予定です。

名音教の HP ができました♪
QR コードでアクセスできます

内容に関するお問い合わせは、
広報部　鎌倉台中 田中省吾まで
【Email　tanaka.s1244@nagoya-c.ed.jp 】

名音教入会申し込みは
庶務部 守山中 福田純也まで
TEL:791-7141